

第1回検討協議会・意見を聴く会の結果を踏まえた整理

資料5

共通の視点 学校再編を単に「学校数や配置を決める問題」として捉えるのではなく、次の3つの視点から総合的に判断する必要があるという共通の認識が示されました。

① 子どもにとって望ましいか

無理なく安全に通い、多様な集団の中で学び成長できるか。

- 通学の負担・安全性
- 教育環境・学校規模
- 心理的安全性・移行支援

② 地域にとって持続可能か

学校が地域の交流・見守り・防災・文化継承に果たす役割を保てるか。

- 地域コミュニティへの影響
- まちづくり・人口減少対策との整合

③ 実現可能な仕組みか

財政と運営体制の両面で、将来にわたり継続できる仕組みか。

- 財政負担・長期的な持続性
- 交通・運営体制の実現可能性

②今後の意見交換テーマとして設定する 6つの課題

今後の進め方 以下の6テーマについて、第2回では1～3、第3回では4～6について、意見交換で具体的な対応方針を検討してまいります。

第2回の意見交換テーマ

**1 多様な主体の
意見把握・反映**

**2 望ましい学校規模
と教育環境**

3 通学環境の確保

第3回の意見交換テーマ

**4 財政・施設・将来
人口を踏まえた実現
可能性**

**5 地域との関係・郊
外校の位置づけ**

**6 子どもの心理面・
学校生活への配慮**

②意見交換テーマの詳細(課題 1～3)

課題1 多様な主体の意見把握・反映

保護者・子ども・教職員・地域住民などの意見を、どの段階でどう反映し、納得感のあるプロセスを築くか。

【視点①】教職員への負担・学校文化の調整 → 統合準備期間に、教職員間の交流、教育課程・校務分掌の調整、校内支援体制づくりを位置づける。

【意見を聴く会】 アンケートの誘導への懸念、協議会の公開・傍聴・議事録の透明性、委員構成・公募委員の公表、子ども・当事者の意見を直接聴く場、統合ありきへの不信・白紙撤回の要望

課題2 望ましい学校規模と教育環境

少子化が増々進む中で、一定規模の集団による多様な学びと小規模校のきめ細かな教育を踏まえ、目指す学校規模・学級規模をどう考えるか。

【視点①】義務教育学校とするか → 目的・教育上のメリット・施設整備上の効果・懸念点を分けて説明し、再編方式そのものを比較検討する。

【視点②】網走独自の学校モデル → 「統合」「存続」「小規模校連携」「小中一貫(義務教育学校)」など複数モデルを比較し、網走らしい学校像を整理する。

【意見を聴く会】 小規模校でも学力・社会性は育つ、適正規模(12～18学級)の検討、小規模校デメリット偏重の見直し、義務教育学校・小規模特認校の位置づけ、「質の高い教育」の具体像

課題3 通学環境の確保

通学時間・距離、スクールバス、冬季の安全、送迎負担を踏まえ、安全で負担の少ない通学をどう実現するか。

【視点①】公共交通との連携 → スクールバス単独ではなく、JR・路線バス・デマンド交通など既存交通との組合せで持続可能な通学手段を検討する。

【意見を聴く会】 バス乗車時間(最大1時間)の検討、長時間通学の負担、冬期の吹雪・通行止め時の安全、未就学児・保育園児の通園手段への配慮、西小の津波浸水想定区域への立地不安

①学校のあり方を検討するための評価軸(切り口)

今後の学校のあり方を検討する際に、必ず確認すべき評価軸として整理します。

視点	評価軸	留意すべき内容
① 子どもにとって 望ましいか	通学負担・安全性	通学距離・通学時間、低学年への負担、冬季の安全、バス停までの移動、保護者送迎の有無などを確認し、子どもが無理なく安全に通える環境かを評価する。 意見を聴く会： バス乗車時間(最大1時間)の根拠、冬期の吹雪・通行止め時の安全、西小の津波浸水想定区域への立地不安
	教育環境・学校規模	多様な人間関係や切磋琢磨できる集団規模か、小規模校の良さであるきめ細かな指導を実現できるかなど、学びと成長の機会を確保できるかを評価する。 意見を聴く会： 小規模校でも学力・社会性は育つ、適正規模(12~18学級)の根拠・資料表現の見直し
	心理的安全性・移行支援	統合による不安、不登校児童生徒への影響、途中学年で統合する児童への配慮を確認し、事前交流・段階的な移行・相談体制などの支援を具体化できるかを評価する。 意見を聴く会： 環境変化による心のケアを最優先、段階的な事前交流、いじめ・不登校児への対策
② 地域にとって 持続可能か	地域コミュニティ への影響	学校が地域の交流、見守り、防災、文化・伝統の継承に果たしている役割を踏まえ、再編後も地域とのつながりを維持できるかを評価する。 意見を聴く会： 学校は地域の交流・見守り・防災の拠点、既存校舎の有効活用
	まちづくり・人口減少対策と の整合	地域コミュニティの維持、移住・定住、子育て世代の居住選択、地域交通や子育て施策との関係を踏まえ、網走市全体の将来像と整合しているかを評価する。 意見を聴く会： 学校がなくなることによる子育て世代の流出・地域衰退への不安、少子化対策を主軸に
③ 実現可能な仕 組みになって いるか	財政負担・長期的な 持続性	校舎整備費、維持管理費、スクールバス経費、解体費、将来の児童生徒数、再々編の可能性を確認し、初期費用と継続費用の両面から持続可能かを評価する。 意見を聴く会： 30年約337億円の実質負担額(補助・交付税措置後)と統合費用の比較
	交通・運営体制の 実現可能性	スクールバスの運営、給食センター、放課後の居場所などの立地を踏まえ、再編後の学校運営を継続できる体制を整えられるかを評価する。 意見を聴く会： スクールバスの運行体制、給食センターの扱い、教職員数の減少への配慮

②意見交換テーマの詳細(課題 4～6)

課題4 財政・施設・将来人口を踏まえた実現可能性

校舎整備、廃校後利用、バス経費、維持管理費、将来の児童生徒数を踏まえ、持続可能な再編案をどう検証するか。

【視点①】子育て支援との連動 → 放課後児童クラブ・児童館・送迎動線を含めた子どもの一日の生活圏として検討する。

【視点②】給食・学校運営体制の持続可能性 → 給食・教職員・事務・維持管理など学校運営全体の持続可能性として検証する。

【意見を聴く会】 現状維持30年・約337億円は実質負担額か(国庫補助・交付税措置後)、統合費用との比較、各案(新築・既存利用・改修)の費用提示

課題5 地域との関係・郊外校の位置づけ

学校が担う地域コミュニティ・防災拠点(給食施設含む)・文化や伝統の継承の役割を踏まえ、学校配置をどう考えるか。

【視点①】閉校後の校舎活用・解体費 → 再編案ごとに廃校後利用・防災拠点化・民間活用・解体費・維持管理費をあわせて示す。閉じる学校への対応も丁寧に行う。

【視点②】地域文化・伝統芸能の継承 → 統合後も地域学習・学校行事・地域団体との連携で各地区の文化や歴史を継承する仕組みを検討する。

【視点③】まちづくり・人口減少対策との整合 → 移住・定住や子育て施策、市全体の将来像と整合させる。

【意見を聴く会】 学校は地域の交流・見守り・防災の拠点、既存校舎の有効活用、子育て世代の流出・地域衰退への不安

課題6 子どもの心理面・学校生活への配慮

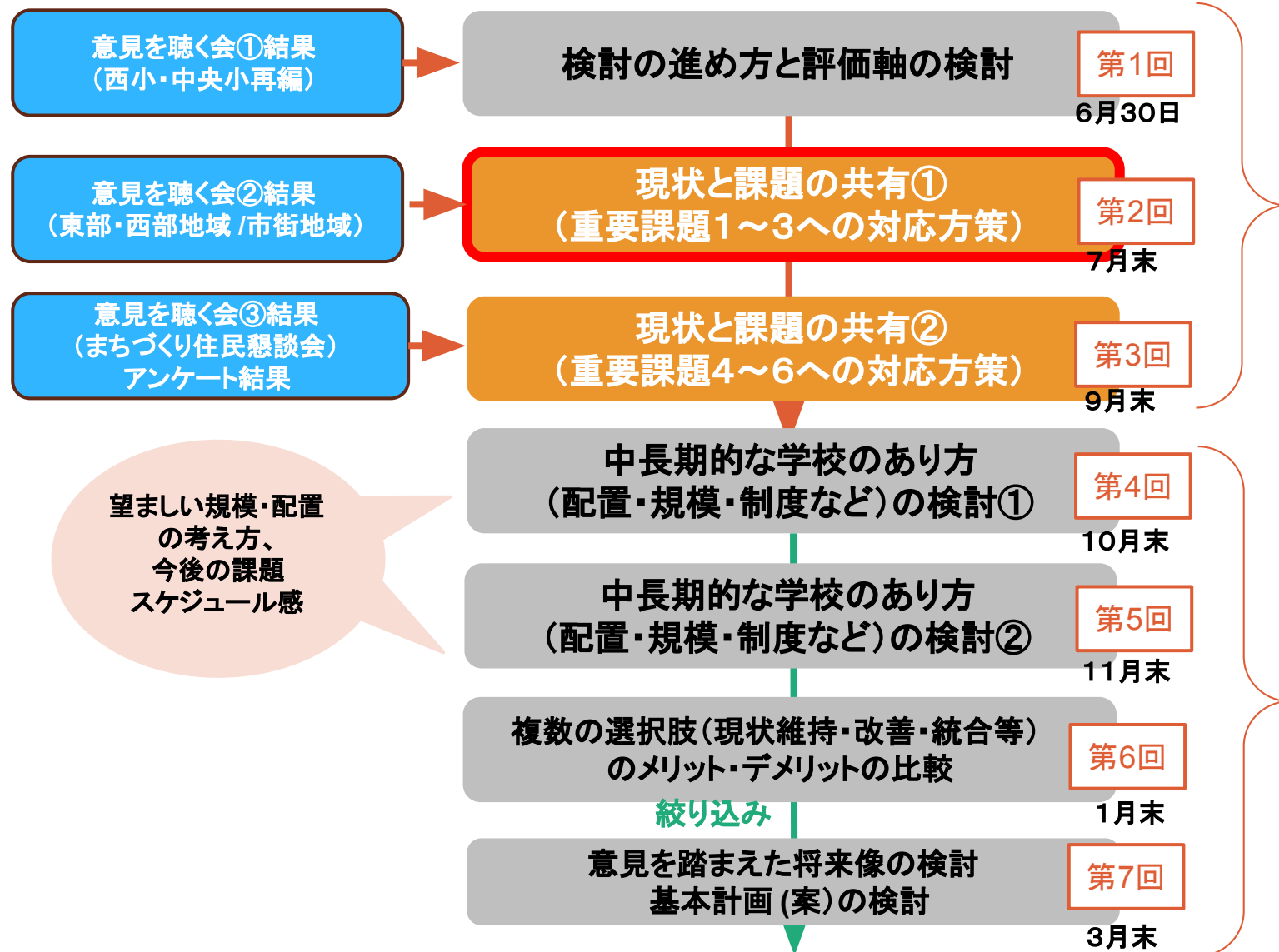
統合に伴う不安や不登校への影響を想定し、事前交流・合同学習・ICT活用・相談体制をどう整えるか。

【視点①】途中学年で統合する児童への影響 → 統合年度の学年ごとに影響を整理し、事前交流・クラス編成・相談体制・移行支援を具体化する。

【視点②】不登校児童生徒への影響 → 心理的安全性・別室支援・段階的登校・オンライン活用など個別支援の視点を組み込む。

【意見を聴く会】 環境変化による心のケアを最優先、段階的な事前交流、いじめ・不登校児への対策、「相談」の場

協議会の流れ



課題・対策を具体化

学校のあり方を具体化

パブリックコメント 4月～

③第1班 意見交換のまとめ

まとめ 再編後の通学時間・通学路・スクールバスなど通学環境への配慮を最優先に検討すべきとの意見が多く、地域とのつながりや学校の歴史・伝統、多様な人間関係の中で学べる教育環境、長期的視点に立った施設整備を重視。

1. 通学環境・通学路の安全確保

- ・ 統合で通学距離が延び低学年の負担が大きい
- ・ スクールバス整備と実際の運行ルート・所要時間の考慮
- ・ 隣接校が近い地域など柔軟な通学区域も検討

2. 教育環境・学校規模

- ・ 多様な人間関係で社会性・切磋琢磨を確保
- ・ 少人数教育のきめ細かさも重視
- ・ ICTなど教育設備・環境の充実

3. 地域とのつながり

- ・ 行事や総合学習で地域住民と交流
- ・ 学校の歴史・伝統を継承する工夫
- ・ 地域全体で子どもを育てる視点

4. 子どもの成長を支える学校づくり

- ・ 一人ひとりに寄り添う教育
- ・ 安心して相談できる環境づくり
- ・ 縦と横のつながりを通じた成長

5. 施設整備・将来計画

- ・ 老朽化だけでなく数十年先を見据える
- ・ 将来人口減を踏まえ再々編を回避
- ・ 施設整備と学校規模を一体で検討

6. 学校運営・給食体制

- ・ 児童減に伴う給食センターの見直し
- ・ 調理員・栄養士の人材確保が課題
- ・ 持続可能な運営体制が必要

③第2班 意見交換のまとめ

まとめ 教育の質を確保する適正な学校規模と、再編に伴う通学問題が大きな論点に。学校だけの問題とせず、少子化対策・地域づくり・防災・卒業生とのつながりなど地域全体の視点から考えるべきとの意見。

1. 学校のあり方・学びの環境

- 多様な集団の中で学べる環境
- 20～30人・複数クラスが望ましい
- 社会性を育てる場としての学校

2. 小規模校・大規模校の課題

- 小規模校は関係が深く安心感
- 新しい出会いや選択肢が限られる
- 規模の大きな学校を望む声も

3. 再編に伴う不安

- 通学が最も多く挙げられた不安
- 新環境・人間関係への適応
- 放課後の居場所の確保

4. 保護者・地域との関わり

- 低学年・未就学児保護者の声も重要
- 保護者も一緒に学べる学校
- 透明性のある学校運営

5. 学校と地域・まちづくり

- 再編だけでなく人口減少対策も必要
- 「点」でなく「面」の議論を
- 防災拠点としての学校

6. 統合・閉校時の配慮

- 卒業生とのつながり・記念事業
- 学校文化をどう残すかが課題
- 事前交流など準備期間の確保

③第3班 意見交換のまとめ

まとめ 安全で負担の少ない通学環境の確保と、教育の質の確保について多くの意見。地域とのつながり、防災拠点としての役割、統合時の子ども・教職員への配慮、財政面の見通しなど総合的に考える必要性を共有。

1. 通学環境・通学時間

- ・ 最も多く意見が出たテーマ
- ・ 安全に通える環境が最優先
- ・ 小学生に負担の少ない通学

2. 教育の質と学校規模

- ・ 切磋琢磨できる環境が大切
- ・ 小規模校の良さも尊重
- ・ 35人学級基準の見直しへの意見

3. 地域とのつながり

- ・ 地域が子どもの顔を知る関係
- ・ 見守り・声かけの維持
- ・ 地域コミュニティの核として

4. 防災・避難所機能

- ・ 災害時の避難所として重要
- ・ 統廃合で避難場所への懸念
- ・ 防災の観点からの検討が必要

5. 統合時の子ども・教職員への配慮

- ・ 急な統合は不安・不登校の懸念
- ・ 教職員の負担・準備期間
- ・ 事前交流で円滑な接続を

6. 財政面・実現可能性

- ・ 財源確保への不安
- ・ 費用シミュレーションの提示
- ・ 維持管理費含む長期見通し

③第4班 意見交換のまとめ

まとめ 学校再編の進め方そのものへの疑問や不安が多く、決定ありきではないかとの不安、説明不足、保護者・教職員・子ども・未就学児家庭・地域住民の意見反映、通学環境や子どもの心理面への配慮が大きな論点に。

1. 再編の進め方・意思決定への不安

- ・ 統合の必要性そのものへの疑問
- ・ 説明不足・決定ありきへの不満
- ・ 現場・将来世代など多くの声の反映

2. 通学環境・スクールバス

- ・ 遠距離・長時間通学への不安
- ・ バス・運転手不足、冬季の安全
- ・ 保護者負担、公共交通の活用

3. 子どもの心理面・学校生活

- ・ 統合による心理的不安
- ・ 人間関係・いじめへの懸念
- ・ 特に途中学年への影響

4. 地域と学校のつながり

- ・ 豊郷神楽など伝統文化の継承
- ・ 地域の結びつきへの配慮
- ・ 学校は地域の中心的存在

5. 小規模校と大規模校

- ・ 小規模校の価値(異学年交流等)
- ・ 網走独自の学校づくり
- ・ 小規模校の良さを活かす選択肢

6. 将来の学びの環境づくり

- ・ 統合前からの学校間交流
- ・ オンライン・合同学習の活用
- ・ 段階的な交流で安心の移行

③第5班 意見交換のまとめ

まとめ 通学環境、郊外校の存続と地域維持、まちづくり全体の中で考える必要性、学校文化・伝統の継承、子どもの心理面への配慮が大きなテーマに。人口減少対策・移住促進・農漁業地域の維持・交通政策と一体で検討すべきとの意見。

1. 重視すべき視点

- ・ 将来の児童数・教職員確保
- ・ 適正な学校規模の考え方
- ・ 立地・配置計画が重要

2. 通学環境への懸念

- ・ 通学時間増への懸念
- ・ 先に具体的な運行計画を
- ・ 送迎負担の集中

3. 郊外校の存続問題

- ・ 郊外校を残すべきとの意見
- ・ 学校の有無が移住に直結
- ・ 農村地域の活力低下懸念

4. 財政面・コストの検証

- ・ メリットだけでなくコストも明示
- ・ バス・新設・解体・維持費の数字
- ・ 廃校後の活用の検討

5. まちづくりとして考える

- ・ 学校単独の議論では不十分
- ・ 子育て・移住・交通政策と連携
- ・ 網走市全体の将来像を

6. 統合で大切なこと

- ・ ハードよりソフトが重要
- ・ 各校の歴史・特色の継承
- ・ 新しい学校文化の創造

7. 子どもへの配慮

- ・ 子どもの気持ちを最優先
- ・ 不登校児童生徒への対応
- ・ 保護者の納得形成

8. 学校間交流の推進

- ・ 統合前からの交流
- ・ ICT・オンラインの活用
- ・ 「一緒に学びたい」環境づくり